

令和 3 年 6 月 18 日現在

機関番号：12101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17K02537

研究課題名（和文）エミリー・ディキンソンの宗教メタファーに関する分析

研究課題名（英文）Emily Dickinson's Religious Metaphors

研究代表者

小泉 由美子 (KOIZUMI, Yumiko)

茨城大学・人文社会科学部・教授

研究者番号：60178556

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：ディキンソンの宗教メタファーの意味を当時の福音主義、新カルヴィン神学を理解することにより解明した。宗教、哲学、科学、文学の複数の学問領域が交差し、「神」の存在が問われた宗教的時代に、詩人が創造した宗教メタファーも時代精神を照射するものである事実を解明することができた。19世紀米国東海岸の宗教、哲学、科学（自然神学）等の文献を解読することにより、ディキンソンを歴史的な脈に位置付け、彼女の宗教メタファーの特殊性を他の代表的な芸術家と比較・対照することにより、詩人の宗教美学、宗教と科学の補完性の可能性を模索した軌跡を追った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

Emily Dickinsonの宗教詩を歴史的な脈の中で理解することにより、「無神論者」「反キリスト教徒」とレッテルを貼られた詩人が、19世紀米国東海岸の思想潮流の中心にいた事実をメタファー分析を通して証明することができた。当時の社会からの「隠遁者」ではなく、宗教と科学の相克の時代、政治、社会的意識を持ち自然神学者たちの問いかけに対し、自身の見解をメタファーにより表明し、その結果「時代」を彫刻しえた偉大な詩人である可能性を示すことができた意義は大きい。最近の文化研究の成果と言語学の知見を活かし、Dickinsonのメタファーの特殊性を解明できたことにより、全体像把握に一步前進した。

研究成果の概要（英文）： The research aims at clarifying the meanings of Emily Dickinson's religious metaphors in her religious poems. Her metaphors work to capture the aura of the time when national theologians argued for evidences of Christianity. The climax of natural history in America coincides with Dickinson's early days when the poet had developed a keen awareness of natural facts in nature, which finally turned into her metaphors. Tracing the contents of natural theology books that Dickinson may have read from childhood to adulthood can help us derive an improved understanding of her religious poems with relation to science.

研究分野：アメリカ文学

キーワード：エミリー・ディキンソン 宗教メタファー 自然神学 科学史 宗教と科学の補完性 新カルヴィン主義  
エドワード・ヒッチコック

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

### 1. 研究開始当初の背景

(1)21世紀に入り Dickinson 研究は歴史的文脈の中で詩人と彼女の詩作品を捉え直すという方向に大きく舵を切る。この大きな方向転換を促したのは Alfred Habegger (2001) の伝記出版だと考えられる。Habegger は「Dickinson 研究において批評家が犯す過ちの一つは、1850年代の宗教潮流から詩人を引き離すことだ」と語り、宗教の影響を軽視しがちであった従来の Dickinson 批評の問題点を指摘した。かくして、Dickinson を19世紀米国東海岸の歴史的な文脈に位置付けようとする複数の試みが展開されることとなった。

(2)2016年に出版された *Knowing, Seeing, Being* に置いて、Jennifer L. Leader は「Dickinson は当時の主要な思想家たちが、宗教、哲学、科学のレンズが重なり合う世界を見ていた」という事実を重視し、詩人が育った特殊な環境から詩作品を概観した。Dickinson が経験した宗教文化は「伝統的福音主義、新カルヴィン派であり、17世紀 Jonathan Edwards の宗教覚醒運動の19世紀版を指向していた」と Leader は解釈している。上記の批評家達は当時の歴史的な文脈に Dickinson を再配置することにより、詩人を彼女の生きた時代に鮮明に浮かび上がらせることには成功した。しかしながら文化研究の成果を直接的に詩分析に結びつけることに成功しているとは言い難い。

### 2. 研究の目的

(1)本研究の目的は、米国史上極めて宗教的時代を生きた Emily Dickinson の宗教メタファーを分析し、複合領域が複雑に絡み合い「神」の存在が問われた当時の思想潮流の中心に詩人を位置付けることを目的としている。

(2)社会的、知的、精神領域が複雑に重なり合い、濃い宗教的色合いで織られた Dickinson の隠喩は、鏡のようにその時代を照射している。詩人は当時の主要な思想家たちのように、「宗教、哲学、科学のレンズが重なり合う世界」をメタファーを通し視ていた。文学、宗教、言語学の学際領域からの複合的方法で、Dickinson の宗教詩 (1858-1864) におけるメタファー分析を通し、詩人の最も本質的問題「人間イエス」の発見に至った経緯を当時の宗教、自然神学、科学等の関連文献を解読することにより解明し、詩人を歴史的な文脈に再配置することを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)本研究は、年1回関連図書館 (Harvard 大学 Houghton Library, Amherst の Jones Library) でのキリスト教関連資料収集・読解を行いながら、日本で論文執筆を並行して行う。

(2)Houghton Library には Dickinson 家蔵書 600冊が収められている。電子化されてい

ないキリスト教関連資料、特に当時の福音派の信仰復興運動時に読まれた資料を収集・読解を経て、Dickinson の宗教メタファー分析を行ないたい。Jones Library では、当時の説教集、当時読まれていた代表的思想家の著作、地質学者・自然神学者であった Edward Hitchcock の宗教関連の著作を集中的に収集・読解することにより歴史的な文脈の枠組みを設定する。

#### 4. 研究成果

(1) 論文 2 件。著書 1 冊。訳本 1 冊。国際会議研究発表 1 件（米国カリフォルニア州アジロマール）。国内学会・研究会発表 2 件。その他 4 件。

(2) 19 世紀ピクチャレスクアメリカの時代、Dickinson は当時の代表的文学者、画家とは異なるアングルから風景を思索し、反ピクチャレスク詩人として、国家発揚を目指す男性芸術家が創造したサブライムを解体した有り様を分析した。「私の窓から見える景観は」(F849) をトマス・コールの有名な風景画「ホリオーク山から見た眺望」と比較・対照し、地上という彼女の立ち位置と内面風景を抽象的に描く Dickinson の特徴を列挙した。コールが山頂で神の視点を持ちパノラマ的展望で描くのに対し、詩人は地上から自室の窓枠を通し逆アングルから彼方の世界を抽象絵画のように描く。「松」は個人的記憶を宿すメタファーで、そこに詩人は無限性を見出している。エマスンやソローの観念的な「松」とは異なり、Dickinson は彼女の経験を基盤とする独創的なメタファーを創造した。一見矛盾する「松」という有限の存在に無限性を視ている点に彼女の宗教メタファーの特殊性を発見した。

米国における自然神学の頂点（1830-1840）と Dickinson の幼年期が重なるという事実から、当時東海岸で誰もが読んだとされる主要な自然神学の児童書や一般書に刻まれたメッセージを抽出し、詩人が創造したメタファーの中に自然神学の影響を見て、宗教詩と自然神学の関連を解明した。ダーウィンの『種の起源』が出版された 1859 年に書かれた『牛飼い座』はもうひとつの名前」(F117) では、科学と宗教の対立を自然科学の用語と聖書からの引用を対比することにより、ダーウィンの一冊が米国にもたらした衝撃を詩人は描く。その後彼女は当時アマスト大学の地質学、自然神学の教授であったエドワード・ヒッチコックの自然神学に関する説教を通し、宗教と科学の補完性の可能性を探る。ヒッチコックが自然界の事象を神学的解釈で説明するのを聞き、自然のメタファーを通し生命の神秘を語るイエス・キリストとの接点を見出すこととなるが、最終的には科学に基礎を置いた自然神学では説明できない事柄が存在するという認識に至る経緯を解明した。

「景観」一語により当時の時代精神を表象した F849 番の分析を通し、米国 19 世紀東海岸のグランドツアーの歴史的な文脈に、詩人を位置付ける。寝室の閉ざされた窓から見える松を通し神の声を聴こうとしている詩人の姿には、当時の自然神学の影響を見て取れる。また、自然観照により、神を感知しようとしたラスキン、ワーズワースの宗教美学の影響も感じ取れる。当時の先進的自然科学の教育を受けた Dickinson はアメリカの景観に内在する神性に対し、敬虔な理解を示しながらも、景観は彼女の感性に訴えかける存在に留まっている点

が、他の作家と大きく異なる点である。

2019年の国際会議では、米国美術史の枠組みを使い、19世紀米国風景画の巨匠トマス・コールと比較・対照し、コールが神話としての庭を描いたのに対し Dickinson は自分の内面を投影した庭を描いた相違点を美術史の流れの中で説明した。

日本で初めてのフランクリン版『完訳エミリー・ディキンソン詩集』を出版した。最も宗教的と考えられている 1864 年の宗教詩を中心に宗教コードの解説を通し、新解釈に裏打ちされた新訳を提示した。

### (3)その他

「ディキンソンの風景詩学を考える」日本エミリー・ディキンソン学会第 32 回大会シンポジウム「ディキンソンの風景表象」企画と研究発表、2017/06/17、駒澤大学（東京都世田谷区）

「主よ、私の命を紐で縛ってください」「私の窓から見える景観は」訳と訳注。思潮社刊『現代詩手帖』2017年8月号、「ディキンソン特集」、p.22, pp.28-29.

「ディキンソンの風景詩学を考える」*The Emily Dickinson Review* No.5, pp.39-43.（日本エミリー・ディキンソン学会）

「冬の詩人としてのディキンソン」ディキンソン学会首都圏地区研究会第 11 回研究発表、2018/03/10、早稲田大学（戸山キャンパス）

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yumiko SAKATA KOIZUMI	4. 巻 7
2. 論文標題 Emily Dickinson and Natural Theology	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Studies in Humanities and Communication	6. 最初と最後の頁 29-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yumiko SAKATA KOIZUMI	4. 巻 4
2. 論文標題 The American Scenery through Dickinson's Window	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 茨城大学人文社会科学部紀要人文コミュニケーション学論集	6. 最初と最後の頁 27 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小泉 由美子	4. 巻 No.5
2. 論文標題 「ディキンソンの風景詩学を考える」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 The Emily Dickinson Review	6. 最初と最後の頁 39-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Yumiko Koizumi
2. 発表標題 The American Scenery Through Dickinson's Window
3. 学会等名 Emily Dickinson International Society（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小泉 由美子
2. 発表標題 「ディキンソンの風景詩学を考える」
3. 学会等名 日本エミリィ・ディキンソン学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 新倉俊一編、小泉由美子、東雄一郎、平松史子、武田雅子、朝比奈緑、江田孝臣、上石実加子、梶原照子、古口博之、松本明美、大西直樹、金澤淳子、吉田要、石川まりあ、瀨田佐保子、赤松佳子、川崎浩太郎、山下あや、下村伸子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 私の好きなエミリ・ディキンソンの詩2	

1. 著者名 新倉俊一、東雄一郎、小泉由美子、江田孝臣、朝比奈緑	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金星堂	5. 総ページ数 554
3. 書名 『完訳エミリ・ディキンソン詩集』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	岡崎 正男  (Okazaki Masao)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	オストライカー アリシア  (Ostriker Alicia)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関